

大阪教育大学 修学支援センター活動報告

2021 年度 第 2 号

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・	大内田 裕 (1)
障がい学生修学支援ルーム活動報告・・・・・・・・	茂野 仁美 (3)
カウンセリングルーム活動報告・・・・・・・・	奥田紗史美 (7)
活動報告総括・・・・・・・・・・・・・・・・	茂野 仁美・奥田紗史美 (12)
2021 年度活動日程報告・・・・・・・・・・・・・・・・	(17)
修学支援センタースタッフ一覧・・・・・・・・	(18)

大阪教育大学修学支援センター

巻頭言

修学支援センター長 大内田裕

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）もここに来て少し落ち着いてきた感があり、生活も徐々にコロナ前に戻りつつあります。大学においても、このような流れを反映してオンライン講義から対面講義へと移行し通常状態にもどってきています。このコロナ禍において、障害のある学生の修学支援は、今までとは異なる状況に対応を求められてきました。特に、今までは、聴覚障害の学生に対するノートテイクなど聴覚情報を視覚情報へと変換するという支援が中心でしたが、講義がオンライン講義（特にオンデマンド方式）となったことで、講義の情報が文字中心になり聴覚障害の学生に対する支援を行う機会も減っていました。このことは、視覚障害や聴覚障害と言った感覚器の障害は、比較的オンライン講義に用いられる ICT と親和性が高く、文字情報や字幕、文字の読み上げ機能などが効果的に支援の機能として働いたと考えられます。

一方で、在宅でのオンライン講義のために、集中できない、生活のリズムが崩れる、やる気がおこらない、気分が沈むなどの精神的な訴えや発達障害に対する支援が今まで以上に増えてきました。このことは障害が見えにくい発達障害や精神障害、またその傾向から生じる症状に対する支援が、今まで感覚器の障害に対して行ってきた支援方法では異なる支援が求められ、かつ事例ごとに個別の対応が非常に多く求められることから、支援スタッフに非常に大きな負担となってきました。

発達障害の症状は、多くの人が持っている特性が、より明確に強く、かつ高頻度で見られる「量の障害」と障害のある人にもみ見られる特有の症状という「質の障害」があることが知られています。特に、この前者の「量の障害」では、多くの学生においても感じる「朝起きられない」や「やる気がでない」などといった状態が多くの人に比べてより強く、高頻度で見られ大学生活に支障をきたします。このため、単に怠惰として捉えられることが多く、周り、特に教員に理解を得ることが難しい症状です。さらに、発達障害や精神障害においては、自分の特性を把握していないことが多く、自分から助けを求めることがあまり多くありません。その結果、問題として認識されるころには、大きな問題になっていることも少なくありません。

このような状況に対して、まず指導教員や講義を担当する教員に上記のような発達障害、精神障害の症状の特性をしっかりと伝え協力を得ることが重要となってきます。次に、学生からの申告があって初めて動き出す合理的配慮では、自分の特性に気が付きにくい発達障害や精神障害に対しては後手後手に回ってしまうことが多くなってしまいます。その

ため、指導教員などからセンターから単位の取得などに困っている学生の情報を得て、早期にアプローチできる環境を整える必要があります。ただ、このような支援を行うために、支援の対象となる学生に対する支援プログラムのコンテンツをさらに充実させ、かつカウンセラーやコーディネイターを含めた支援スタッフの長期的な育成も重要となってきます。以上より、ポストコロナの支援システムは、より多様な学生の問題にも対応できるよう上記の対策を一つ一つ達成し、より多くの学生が教員になることをバックアップできるように努めていきたいと思っております。

2021 年度（令和 3 年度）障がい学生修学支援ルーム活動報告

コーディネーター 茂野仁美

1. 月別利用状況（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

2021 年度の障がい学生修学支援ルームの利用学生の推移は、以下の表 1 に示す。年度当初の新規利用学生は、昨年度（表 2）と大きな変化はない。2021 年度は、多くの授業が対面で行われることで準備されていたが、4 月中旬に再度、緊急事態宣言が出され学生の入構も制限される状況となったため、5 月の利用は 1 件にとどまっている。一方、一部対面授業が再開されはじめた 6 月は利用が増加している。もともと大学に来ることに負担に感じやすく、問題が生じやすい学生にとっては、オンライン授業から対面授業への環境の変化で困難となり、相談が増加したと考えられる。また、6 月には一部ではオンライン授業も継続しており、オンラインと対面授業のスケジュールを自ら把握して、時間を有効に使う工夫が普段以上に求められた。対面授業が再開されているのに授業に出てこなかったり、オンライン授業時の課題が多く残っていたりして困っている学生が、指導教員や科目担当の教員から障がい学生修学支援ルームを紹介されて利用するケースも見られた。7 月になると、利用数は若干減少するが、相談内容は 6 月同様のケースであった。

面談方法については対面だけでなく、すでに昨年度から行われていた Zoom や電話での遠隔による面談を学生の希望に応じて選択できるように提示した。

表 1. 2021 年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移（月）

2021 年度	視覚	聴覚	肢体不自由	病弱	重複	発達	精神	その他	柏原	天王寺	その他	新規	累計
継続	2	5		1		3	5		13	3			16
4月		2	1				1	2	4	2		6	22
5月							1		1			1	23
6月						3	3	2	8			8	31
7月				1		1	1	1	4			4	35
8月												0	35
9月							3		3			3	38
10月						1				1		1	39
11月						1						1	40
12月												0	40
1月								1	1			1	41
2月												0	41
3月												0	41
計	2	7	1	2	0	9	14	6	34	6	0	25	40

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

表2. 2020年度 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(月)

2020年度	視 覚	聴 覚	肢 体 不 自 由	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	新 規	累 計
継続	1	5		2	3	3	4	2	18	2			20
4		1		1	1		1			4		4	24
5	1										1	1	25
6				1			1	1	3			3	28
7							1	1	1			1	29
8							1		1			1	30
9				1			1		2			2	32
10							3	1	3	1		4	36
11					1				1			1	37
12							1		1			1	38
1							1		1			1	39
2							1	1	2			2	41
3	1	2				1	1		5			5	46
計	3	8	0	5	5	4	15	6	38	7	1	31	46

※複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う

〈参考〉

表3. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(年)

年度 (和暦)	年度 (西暦)	学 生 数	障 が い 学 生 数	在 籍 比 率	視 覚	聴 覚	不 自 由 肢 体	病 弱	重 複	発 達	精 神	そ の 他	柏 原	天 王 寺	そ の 他	継 続	新 規
H24	2012		6		1	4				1							
H25	2013		7		1	4				2							
H26	2014		14		1	6	1			2	1	3					
H27	2015		16		2	6	1			3	1	3					
H28	2016		18		1	3	1			7	1	5					
H29	2017		23		1	8	1	2		6	3	2					
H30	2018	4605	42	0.91%	2	9	2	1		7	7	14					
R1	2019	4496	60	1.33%	4	8	2	6	4	6	17	13	51	5	4	21	60
R2	2020	4349	77	1.77%	3	8	0	5	5	4	15	6	38	7	1	31	46
R3	2021	4350	65	1%	2	7	1	2	0	9	14	6	34	6	0	25	40

※入学予定者は入学前の面談等を実施した場合は該当年度の新規として扱うが、その後入学した場合は入学年度の新規として扱う。
 ※2020年度より「重複」の項目を新設し、複数の障がい項目にまたがる者は重複として扱う。H30までは「重複」に該当する学生は「その他」に含まれている。

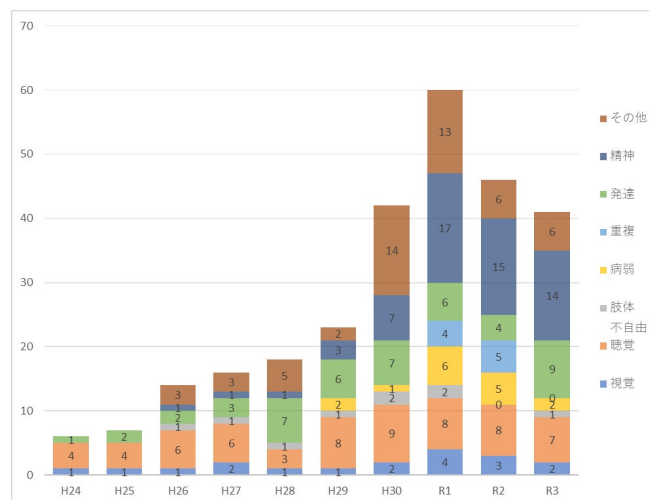


図1. 障がい学生修学支援ルーム利用学生の推移(年)

2. 主な取り組み

(1) 情報保障体制

2020 年度より導入されている遠隔情報保障システム captiOnline での支援を継続して行った。利用学生が対面授業を教室で受講する際も、支援協力学生は遠隔で支援活動を行うこともできるため、支援ルーム前の交流スペースで行なったり、自宅から行ったりと多様な活動方法となっていた。

新規支援協力学生へのパソコンテイクによる情報保障の研修(特待生講習)については、例年であれば5月連休明けから開催されてきたとのことであるが、2021年度は4月の授業開始後すぐにオンライン授業へ移行したため研修を行うことが出来たのは、6月下旬からであった。

字幕挿入については、昨年度途中から導入された Vrew で行った。

(2) 多様な困難を抱える学生への対応

現在まで障がい学生修学支援ルームの利用学生は、情報保障を目的とし、型が決まった支援が中心である聴覚障がい者が主であったが、個別にニーズが異なる発達障がいや精神障がいの学生が増加してきた。このような発達障がいや精神障がい学生は、コロナ禍におけるオンライン授業によって対人関係を最小限にできたり、自分のペースで学習に取り組めるということが、登校のしづらさにプラスになった面もある一方で、スケジュール管理の困難さや、オンラインで提供される課題や、その課題に取り組むためのIT機器の操作方法などの情報量に圧倒されて、課題が滞ったり、精神的に追い詰められていくケースが多く見受けられた。学生によっては、偶然、理解のある同級生に恵まれ、友人らの助けも得ながら、各科目の教員からの配慮を受けて大学生活を送ることができているケースもあるが、特にコロナ禍では同級生との出会いすら困難な状況で、支援が受けられず孤立化しているのではないかと考えられる。もちろん、学生によっては自分のことを開示したくないということもあるので、一概には言えないが、理解のある仲間、理解し合える仲間に出会えるような働きかけが課題である。このことについては、支援協力学生からも共に困り感のある学生に寄り添える活動を考えていきたいという声があり、支援協力学生を中心にいくつかのプロジェクトが立ち上がっている。そこでは、コーディネーターをはじめ、障がい学生修学支援ルームスタッフらで学生プロジェクトに同席し、障がい特性や支援に対する姿勢などについてアドバイスを行なった。

聴覚障がい等の身体障がい以外の障がい学生への支援も、個別性に配慮しながらも、個々のニーズを持つ学生がさらに自らつながってきやすい働きかけとなる仕掛けが必要であり、そのためには取り組みの可視化の工夫をしていかなければならない。今後も継続的に取り組みを行っていく。

3. 2021 年度のコーディネーターの体制の交代と課題

障がい学生修学支援ルームは、2021 年 3 月に柏原キャンパス担当のコーディネーターの交代があり、4 月からは天王寺キャンパスと聴覚障がい学生を担当するコーディネーターも交代となった。2021 年 3 月から 9 月について、柏原キャンパスはコーディネーター 2 名が非常勤で、それぞれ週 3～4 日（2020 年 9 月からは常勤となる）と、週 1 日で支援活動を行なった。2021 年度前期を迎えるため、実質 2021 年 3 月中旬より両キャンパスの前任コーディネーターからの引継ぎ事例の対応とともに、新入生の修学支援対応にあたった。

2020 年度に新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等を受け、オンライン授業などのこれまでにない対応が必要となり、学生からの配慮申請を受けての面談の方法や、支援方法など多くが変更されており、基本的には 2020 年度に整備された方法を踏襲する形で、2021 年度の支援活動をスタートさせたが、さらに状況も刻々と変化する中で、面談方法や支援方法などを柔軟に運用することが新たに必要であった。結果的にということにはなるが、対応にあたるコーディネーターが全員交代するにあたって、これまでの本学の障がい学生支援の手続きや、引継ぎ事例の学生の状況を熟知するのには十分な引継ぎが行われたとはいえず、年度当初は十分な対応とは言えない場面があったと思われる。引継ぎや、学生のこれまでの経緯、指導教員や関係部署との連絡調整を含めた経緯など不明な点や、それらの情報の整理方法に課題が多く、整備が必要であった。継続的に同じ体制で支援活動を行なえることが理想であるが、常にそれが可能とは限らないことも想定し、コーディネーター間での情報共有の在り方や、業務の引継ぎを想定した情報整理の仕方が課題だろう。

2021 年度（令和3年度）カウンセリングルーム活動報告

カウンセラー 奥田紗史美

1. はじめに

令和3年度は、修学支援センター発足から2年目の年となり、COVID-19流行も2年目に入った。学内的には前年度ほどの厳しい入構規制が行われることもなく、1年を通じて徐々に対面授業の割合が増えてキャンパスライフが戻りつつある移行期であったと思われる。その移行自体は現在も完了しているわけではなく、様々な活動制限が今なお学生たちの生活に影響を与え続けている。その中で、学生たちはオンラインやオンデマンドなど遠隔授業への適応と、後期以降は対面授業への再適応という課題に直面した。自粛が緩み、対面授業が再開すればすべて元通りというほど簡単ではないようである。対人関係の侵襲性を緩和し、講義を繰り返し再生できるといったオンライン（オンデマンド）の思わぬ恩恵にあずかっていた学生たちが、対面授業が始まると登校や修学の継続が難しくなるなど、新たな問題もみられた。特に2回生以下の学生たちにとって、キャンパスライフはまだ始まっていないのに失われたに等しく、学校にはくるものの正課外の活動が低調な学生たちや、友人関係が深まらないまま限られた学生生活が過ぎていくむなしさを語る学生たちなど、様々な形で余波が広がっている。

そのような学生たちの相談を受けるカウンセリングルームの感染予防対策は令和2年度の方法を踏襲し、対面での相談に加えて、電話とオンライン（Zoom）での遠隔相談を継続した。遠隔相談については初回来談の予約時に希望を聴き取り、それに対応した。従来対面での相談に来ている学生が、様々な事情（感染対策に限らず、大学に来る時間的な余裕がない、外出する気力がない等の個人的な理由も含む）により、適宜オンラインを希望するハイブリッド方式にも対応した。

2. 利用状況

以下に令和3年度のカounselingルーム利用状況を報告する。今年度の集計より、天王寺キャンパス所属の学生の特徴をデータとして示すために、教員養成課程のうち初等教育教員養成課程の幼児教育専攻、小学校教育専攻（昼間コースは3年次以降）の学生の所属を、柏原キャンパスの教員養成課程の学生とは切り分け、「初等教育（天王寺）」としてカウントしている。第二部所属の過年度生が来談した場合もここに含めている。

（1）年間相談状況

表1に、月別の新規来談者を相談内容別に分類し、再来談（終結後、別の主訴で改めて来談）と前年度より継続の来談者数とあわせて示した。述べ面接回数も月別に集計し、同表内

に示した。令和3年度の新規来談者は101名、再来談は23名、前年度からの継続が24名であり、令和2年度に比べて大幅に増加した（令和2年度は新規84名、再来談17名、前年度からの継続が15名）。新規申し込みは4～6月に一山あり、コロナ前の状況に戻った。夏休み中の8月、夏休み明けの10月以降もコンスタントに申し込みがあった。1月～3月がやや落ち着くことも含めて、利用状況の数値にコロナ禍の影響はあまり反映されず、例年通りの傾向を見せている。

表1 令和3年度 カウンセリングルーム 月別・相談内容別・来談年次別来談者数および面接回数(柏原・天王寺キャンパス)

新規来談者数								令和3年3月31日現在			
	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	合計	再来※	前年度から継続	総合計	延べ面接回数
4月	2 (0)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	8 (2)	15 (7)	6 (3)	19 (11)	40 (21)	91 (51)
5月	1 (1)	0 (0)	4 (3)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	10 (6)	1 (1)	3 (3)	14 (10)	74 (47)
6月	0 (0)	2 (0)	3 (2)	4 (3)	2 (1)	1 (1)	12 (7)	3 (1)	0 (0)	15 (8)	100 (58)
7月	1 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	6 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (4)	91 (56)
8月	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	5 (4)	10 (8)	1 (0)	2 (2)	13 (10)	63 (41)
9月	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	3 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	56 (31)
10月	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (5)	12 (10)	3 (3)	0 (0)	15 (13)	87 (59)
11月	1 (1)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	2 (1)	9 (8)	2 (1)	0 (0)	11 (9)	82 (54)
12月	0 (0)	7 (6)	4 (3)	2 (1)	2 (2)	1 (0)	16 (12)	3 (1)	0 (0)	19 (13)	92 (62)
1月	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	89 (67)
2月	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	64 (44)
3月	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (0)	0 (0)	4 (2)	62 (37)
計	10 (6)	17 (14)	20 (14)	15 (12)	9 (7)	30 (17)	101 (70)	23 (12)	24 (16)	148 (98)	951 (607)

()内は女子

※再来:一旦終結後、別の主訴で来談したこと

表2に、学生の所属別に相談内容を集計した。また、在籍者数に対する来談者率を示した。相談内容としては、特に対人関係に関する内容が多い。前年度はコロナ禍の影響で修学上の問題を生じている学生の相談が圧倒的に多く、人とのかかわりが少ないために、対人関係上の悩みは潜伏している印象であった。今年度は対面授業が再開するに伴い、交流そのものが多くなったため、対人関係上の主訴が増加している。また、学生本人がはっきりとコロナ禍の影響を自覚していなくても、主訴の背景の一つとして、コロナ禍による学修面や対人関係上の不活性化の影響を感じさせるケースは少なくなかった。今後もコロナ禍の中長期的な影響に目を配りながら一つ一つのケースに対応していきたい。

表2 令和3年度 カウンセリングルーム 課程等別・相談内容別来談件数および来談率(柏原・天王寺キャンパス)

令和3年3月31日現在									
	進路修学	心理性格	対人関係	心身健康	学生生活	その他	計	在籍者数	来談者率(%)
教員養成課程	11 (6)	11 (9)	11 (10)	8 (7)	5 (4)	7 (4)	53 (40)	2010 (1080)	2.64% (3.70%)
教育協働学科/教養学科	12 (6)	5 (3)	12 (9)	5 (3)	2 (1)	1 (1)	37 (23)	1488 (834)	2.49% (2.76%)
初等教育(天王寺)/第二部	2 (2)	2 (2)	5 (4)	4 (3)	3 (2)	3 (3)	19 (16)	448 (269)	4.24% (5.95%)
学部計	25 (14)	18 (14)	28 (23)	17 (13)	10 (7)	11 (8)	109 (79)	3946 (2183)	2.76% (3.62%)
大学院	3 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	9 (2)	367 (162)	2.45% (1.23%)
特別支援教育特別専攻科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	28 (19)	0.00% (0.00%)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (13)	26 (13)		
卒業生	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	4 (4)		
計	28 (14)	18 (14)	31 (23)	19 (15)	13 (9)	39 (23)	148 (98)	4740 (2495)	3.12% (3.93%)

()内は女子

表3に、学年(回生)別の来談件数と延べ来談回数を男女別に示した。一回生、過年度生以外は女性の方が件数、回数ともに多く、前年度と同じ傾向となっている。女性は被援助指

向性が高いという従来の傾向を反映しているものと思われる。回生別では3回生以降の利用が多い。大学生活の後半は、教育実習や就職活動、卒論といった重要な課題が多く、それらに直面することで危機を体験し、相談のニーズが高まるものと思われる。

表3 令和3年度 回生別来談件数および来談回数

令和3年3月31日現在

来談者内訳	来談件数			来談回数		
	男	女	計	男	女	計
1回生	6 (6)	10 (10)	16 (16)	63	54	117
2回生	4 (2)	20 (20)	24 (22)	32	106	138
3回生	7 (5)	16 (13)	23 (18)	32	112	144
4回生	6 (3)	17 (6)	23 (9)	89	162	251
5回生以上	4 (1)	0 (0)	4 (1)	80	0	80
初等教育(天王寺)	3 (1)	16 (11)	19 (12)	21	77	98
大学院1回生	3 (2)	0 (0)	3 (2)	4	0	4
大学院2回生	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0	6	6
大学院3回生以上	4 (1)	1 (0)	5 (1)	7	29	36
特専	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0	0	0
留学生(内数)	1 (0)	2 (2)	3 (2)	2	6	8
その他	13 (10)	17 (10)	30 (20)	16	61	77
計	50 (31)	98 (70)	148 (101)	344	607	951

()内 新規来談者数

(2) 経年比較

図1に、統計を取り始めた平成19年から令和3年度までの、来談件数、延べ面接回数、及び来談者率の経年変化をグラフで示した。平成24年以降、稼働率は緩やかな増加傾向にあったが、前年度はコロナ禍の影響により、特に延べ回数が減少していた。令和3年度は延べ面接回数も来談件数も統計を取り始めてから最高値であり、構内に学生が戻ってきたこと自体が相談者も増やしたものと思われる。

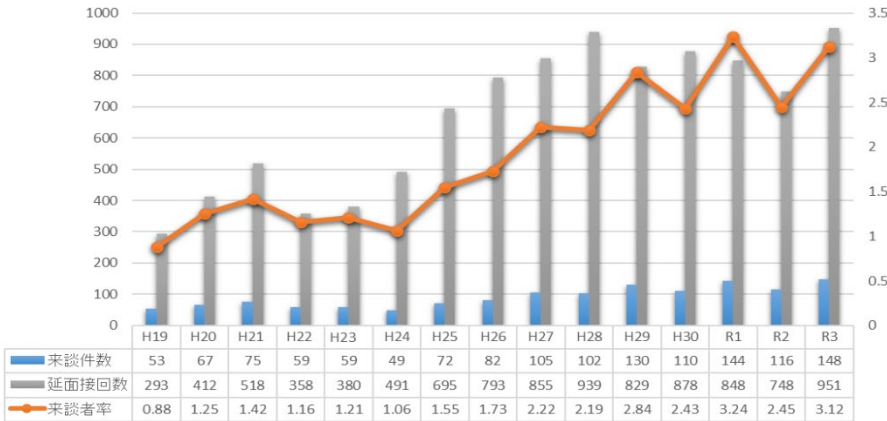


図1 来談件数、延べ面接回数、来談者率の推移(年)

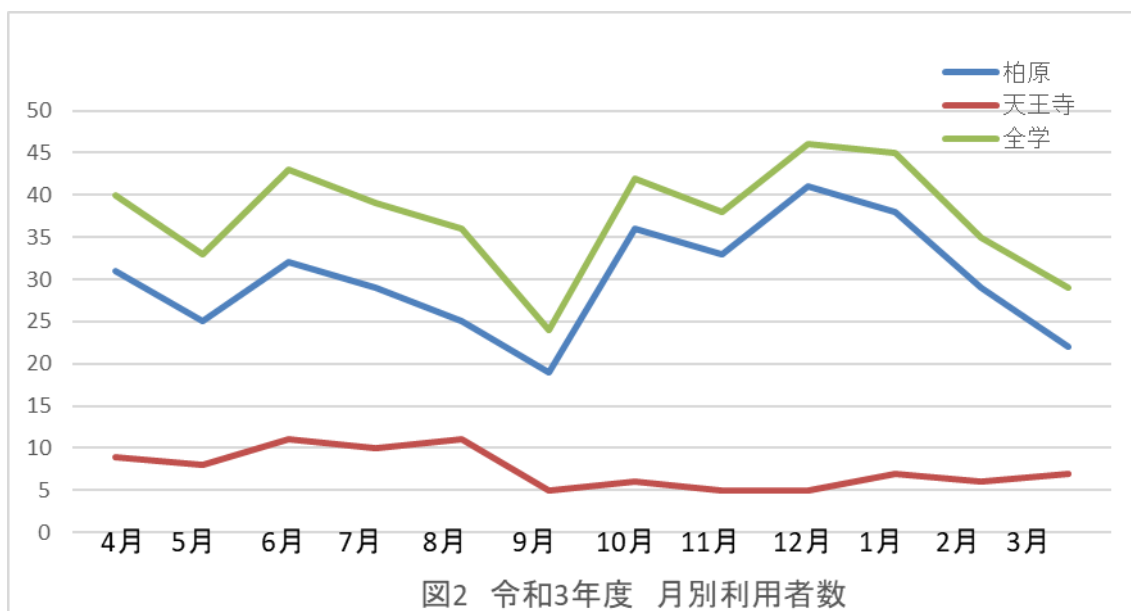
表 4 は、月別の利用状況をキャンパス別に示したものである。図 2 にそのうち利用者数の月別推移を、図 3 に同じく述べ面接回数の推移を示した。

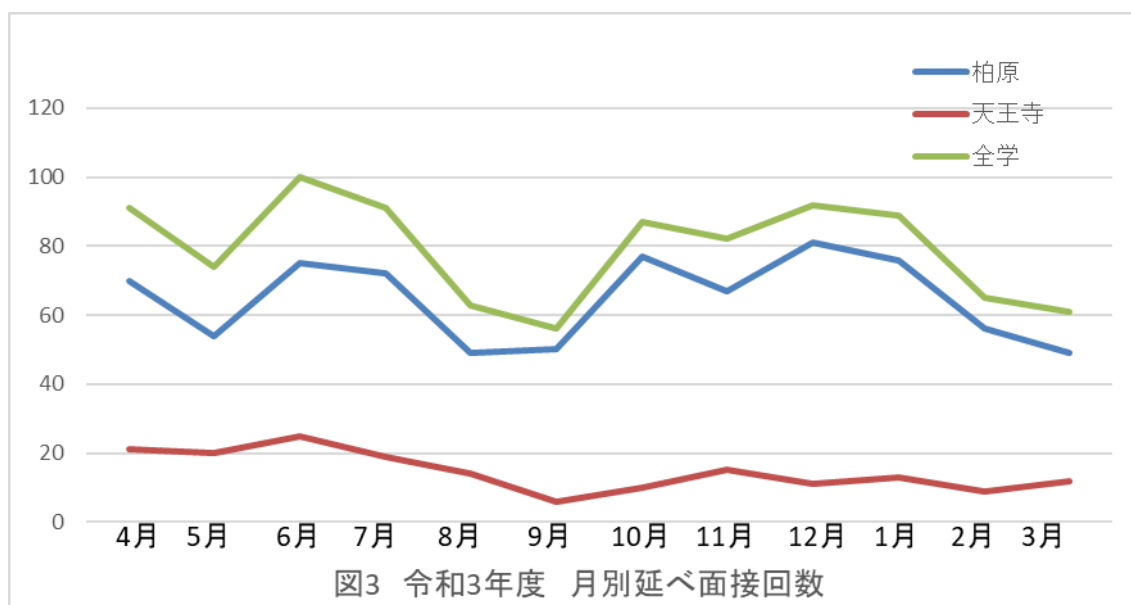
令和 3 年度は長期休み中に来談が落ち込む M 字型であり、これは例年通りの傾向である。単純に、キャンパスに学生がいるときは、カウンセリングルームも盛況である。長期休み中は学生たちが一息つくので足が遠のくが、後期に入ればいよいよ立ち行かなくなり、相談のニーズも高まるのだろう。令和 2 年度の前期中が最初の非常事態宣言中で学内に学生がいなかったことや、オンライン等への対応がまだできていなかったことから、4 月と 5 月の来談が著しく少なかったが、令和 3 年度はこの時期の来談が回復している。

表4 令和3年度カウンセリングルーム月別利用状況

	新規利用者数			当月利用者数			延べ面接回数			遠隔相談(電話・メール等)		
	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学	柏原	天王寺	全学
4月	14	1	15	31	9	40	70	21	91	3	0	3
5月	7	3	10	25	8	33	54	20	74	4	5	9
6月	9	3	12	32	11	43	75	25	100	3	5	8
7月	5	1	6	29	10	39	72	19	91	4	2	6
8月	7	3	10	25	11	36	49	14	63	3	1	4
9月	3	0	3	19	5	24	50	6	56	4	2	6
10月	12	0	12	36	6	42	77	10	87	2	1	3
11月	8	1	9	33	5	38	67	15	82	2	3	5
12月	15	1	16	41	5	46	81	11	92	1	3	4
1月	4	1	5	38	7	45	76	13	89	8	0	8
2月	1	0	1	29	6	35	56	9	65	6	0	6
3月	2	0	2	22	7	29	49	12	61	7	2	9

※遠隔相談件数は内数





以上の報告はカウンセリングルームで行われている「個別」の面接の統計である。個別の面接の受け入れ状況は、学生のみでなくマンパワー（専任1名、非常勤3名、両キャンパスともほぼ毎日1名体制）に応じて決まる側面もある。今後はこの個別面接には引っかけられない学生（カウンセリングにくるほどではないが困っている学生、現状はなんとか持ちこたえているがのちにサポートが必要となる可能性がある学生、苦痛はあるが悩めておらず、カウンセリングを受けるかなかなか決断できない学生、本人ではなく周囲が困っている学生等）を、搦り上げる仕掛けが重要であり、それらはカウンセリングルームだけでなく、修学支援センター全体の取り組みとして充実化を図っている。その点に関しては全体の総括の項にて令和3年度の取り組みを報告する。

2021 年度（令和 3 年度）活動報告総括

コーディネーター 茂野仁美

カウンセラー 奥田紗史美

はじめに

修学支援センターの障がい学生修学支援ルームおよびカウンセリングルームの2021年度（令和3年度）活動報告をうけ、総括する。修学支援ルームもカウンセリングルームも、大学の入構制限と連動して利用者が増減する傾向は2020年度と同様であった。また、双方とも Zoom などを用いた遠隔相談のメニューを継続し、利用学生のニーズに応じて遠隔でも支援を提供できる体制を維持した。次に修学支援センター全体の活動を報告する。

オンラインサロン

2021 年度は、なんらかのセンター主催のグループ活動を実施することを当初から計画しており、さまざまなプログラムが検討の俎上に上っていた。しかし、この時期は実際には新型コロナウイルス感染症の感染状況が予断を許さない状況であり、授業がオンラインで対応しているなかで、学生支援活動だけを例外的に対面かつ不特定多数で実施することは難しかった。よって、まずはオンラインで試験的にグループ活動を行うことにした。実施には zoom を用いて、事前に参加登録をお願いすることで予約完了とした。事前登録が 4 名、当日は 2 名の参加があった。なお、参加者はいずれも留学生であり、うち 1 名は母国からの参加であった。ファシリテーターは奥田（カウンセラー）、茂野（コーディネーター）、寺坂（兼担・教育心理科学部門）3 名であった。

修学支援センター 主催

オンライン サロン

7月7日
12:30~

このたび、修学支援センターではzoomを活用して学生の皆さんの交流のための
オンラインサロン（茶話会）を開催します。
お昼ごはんや、おやつ、飲むものを各自手元にご用意しての参加も歓迎します。
ファシリテーター（進行役）もお昼をたべます！

長引く自粛、完全には再開しない対面授業でなかなか同回生や先輩後輩、
先生方と関わる機会がない学生の皆さん、オンラインにはなりますが、
この機会にまったりと交流の機会をもちませんか。

何か話したいことがある人、ぜひ聞いてもらいたい話がある人、
特に話したい事はないけれど誰にも会わないので退屈している人、
だれかと関わりたい人、
あんまり関わりたくはないけど一人でちょっと寂しくなってきた人、
そんなみなさんの参加をお待ちしています。
オンラインでゆるく話したり話を聞いたりしましょう
（特に話すことがなくても、聴く専らでも参加OKです！）。

日時 2021年7月7日 12:30~13:30
場所 オンライン（Zoom）
参加対象者 大阪教育大学に所属する全学生
ファシリテーター 奥田紗史美（カウンセリングルームカウンセラー）
茂野仁美（障がい学生修学支援ルームコーディネーター）
寺坂明子先生（教育心理科学部門）
ゲスト・ファシリテーター 下野のり子（教職実践研究センター）
参加方法 下記のURLまたはQRコードから事前に
zoomミーティングへの参加登録をお願いします。
<https://bit.ly/3gbZXzi>

構造的に話に参加されなくても大丈夫ですが、最初に自己紹介だけお願いします
（チャットでの参加も可です。本名を名乗りにくい場合はニックネームも可）。
カウンセリングを利用している方は、担当カウンセラーに参加を検討している旨を
あらかじめ相談ください。
ランチはOKですが、アルコールを摂取しての参加はご遠慮ください。

お問い合わせ：修学支援センター（sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp）

時間管理ワークショップ

11月10日と17日（いずれも水曜日）に、全学生向けに時間管理に関するワークショップを開催した。10日は基礎編、17日は応用編の2週連続開催で、オンラインによる事前予約を行った。基礎編は17名、応用編は15名の参加があった。教育心理学部門（修学支援センター兼担）の寺坂明子准教授が当日の講師となり、教育学研究科の大学院生3名と奥田・茂野の教員2名がスタッフとなってワークに参加した。当日は和気あいあいとした雰囲気の中、自らの時間の使い方を振り返り、空いた時間にタスクを入れこむ作業したり（基礎編）や、タスクを細かく分解していく方法を学んだり（応用編）、有意義な学びの時間となった。



修学支援センター主催 時間管理 ワークショップ

この度、修学支援センターでは、学生の皆様に
「時間管理ワークショップ」を開催いたします。

思い返せば高校時代は、あらかじめ時間割が決められており、学校が生活の大部分を占めていました。ですが大学生活では大学の授業や課題はもちろん、アルバイト、サークル、趣味の活動などたくさんのタスクやスケジュールを自分で管理し、こなしていく必要に迫られます。そのことに苦手意識を抱えている方、実際にうまくいわずに様々なタスクが山積みで身動きが取れなくなってしまう方もいるのではないのでしょうか。

今回は、基礎編と応用編に分け、2週にわたって時間管理やタスク管理の考え方やコツ、実践的方法などを一緒に学んでいきたいと思います。基礎編のみの参加も歓迎します。お一人で、またはお友達と一緒に、関心のある方はぜひ積極的にご参加ください。

日時 2021年11月10日（水）、17日（水）（13時30分から15時00分）
場所 N-113（柏原キャンパス事務局棟1階カウンセリングルームそばの学生相談室）
※参加定員20名
（先着順。人数が超過した場合は別日程で同じプログラムを実施します）。

スタッフ
奥田紗史美（カウンセリングルーム）
茂野仁美（障がい学生修学支援ルーム）
寺坂明子（教育心理学部門）

参加希望の方は、右のGoogle formより
お申し込みください。
当日時間になるまで参加申し込み可能です。
（大学アカウントでの認証が必要です。）



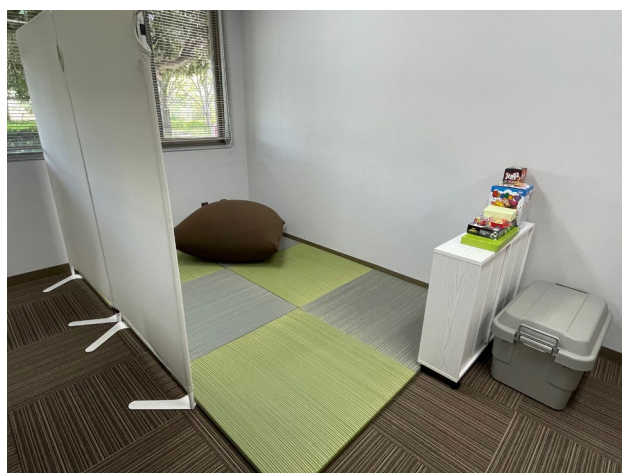
<https://docs.google.com/forms/d/1eqSKKwBMTmOGooKkKj8FDBw3QW6mRSLTP8rEjEZ39u/edit>

また、参加者の中からワークショップに関するアンケート調査に協力して下さる方を募集します。
詳細は申し込み後にご案内のメールを差上げます。
なお、アンケートへの参加を希望されない場合でも、ワークショップへのご参加は可能です。

本件に関する問い合わせ先
大阪教育大学修学支援センター sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp (072-978-3479)

居場所活動（大教 FIKA）

カウンセリングや修学支援といった目的や予約が必要な専門的支援ではなく、より気軽に利用できる居場所支援として、大教 FIKA を開催した。N 棟カウンセリングルーム横の学生相談室を開放し、そこではランチやお茶（お湯の準備有。セルフサービス）、おしゃべり、休憩など自由に過ごしてもらええるスペースとした。開放日には心理学専攻の院生と教員が在駐し、利用学生が安心して過ごせるよう見守ったり、話し相手になったりと適宜対応した。2021 年は1月5日、12日、19日、26日（いずれも水曜日午後）を開放した。利用者は各日約1名程度であった。



令和3年度修学支援センター主催 FD 研修

修学支援センターでは、令和3年度のFD研修として、令和3年12月1日に、東京パラリンピック、マラソン日本代表（視覚障がい T12 クラス）で銅メダリストの堀越信司選手を講師にお招きし「自分を貫き通すということー東京パラリンピックメダル獲得に向けた実践と、共生に対する私見ー」をテーマにご講演いただいた。対象者は本学学生及び教職員であった。開催方法は、会場（A棟209講義室）での対面と限定公開によるYouTubeライブ配信のハイブリッド形式で行った。新型コロナウイルス感染症対策として行った、ハイブリッド形式の講演会への参加者は、対面形式41名、ライブ配信視聴形式55名の計96名であった。後日、講演会の模様を学内限定でオンデマンド公開期間も設けた。オンデマンド動画の視聴数は約250回であった。

堀越選手は、NTT西日本陸上競技部に所属され、マラソン競技に取り組んでおられ、東京パラリンピックも含め、4大会連続日本代表として活躍されている。講演では、ご自身の障がいの状態、幼少期、盲学校（現視覚特別支援学校）の中等部で陸上競技を始めたころも含め現在までの生い立ち、陸上選手としてこれまでに出場された大会で体験談だけでなく、日々の練習やアスリートとして体づくりを意識した食生活のことなどの日常生活のお話のあと、社会における障がい者と健常者の共生に対するお考えのお話をうかがった。その後、堀越選手のご厚意で、希望する対面参加者に各自手指消毒の上、実物の銅メダルに触れる機会をいただき、多くの学生、教職員が本物のメダルの重みを体験させていただいた。

講演会後の参加学生のアンケートでは、堀越選手の日常のトレーニングやアスリートとしての生活習慣の話を通してバラスポーツやパラアスリートのとらえ方に変化があったことや、物事に前向きに取り組むことには障がいの有無は関係ないということが多く挙げられていた。また、学生自身の体験を重ね合わせ、考え方に生かしていきたいことや、将来、教員となった時に生かしたいといったことも挙げられていた。

本FD研修の運営にあたり、新型コロナウイルス感染症対策を行わなければならないこともあり、開催形態は対面とオンラインのハイブリッドで行ったことは前述したとおりである。対面と同様にオンラインでもできる限りよい音声で講演会を視聴できるようにすることと、質疑応答についても、対面、オンラインとも同様に受け付けられるようにする必要がある。また、誰もが情報にアクセスしやすくなるように、障がい学生修学支援ルームの協力学生がリアルタイムでCaption lineを用いて講演内容を文字起こしし、配信動画や会場のスクリーンなどに表示したいと計画していたこともあり、配信方法について尾崎拓郎准教授の助言をうけ準備を進めた。当日は、修学支援センターの教職員に加え、障がい学生修学支援ルームの協力学生、ICT支援ルームの学生スタッフによって運営を行なった。当日は質問フォームを画面上に常時表示して、質問や感想を受け付けた。書き込まれた質問は、その場で、画面に表示した。対面とライブ配信のハイブリッドでの研修運営は、修学支援センターで行うのは初めての試みであったが、配信上のトラブルなく行うことが出来た。アンケートに対面の場に来ることが苦手であるが、ライブ配信があるので参加したという記載をしている学

生がいた。ハイブリッドで行ったことで、参加者側の参加スタイルの選択肢となり、対面だけであれば参加を見送っていたことが予想される学生の参加があったことは、今後の開催においてもハイブリッド開催は方法の一つとして検討していくのが望ましいと考えられる。

自分を貫き通すということ

ー東京パラリンピックメダル獲得に向けた実践と、共生に対する私見ー

講師 堀越 信司 氏
東京パラリンピック日本代表フルマラソン 銅メダル

対象： 本学学生及び教職員
日時： 令和3年12月1日（水）13:00～15:00
場所： 大阪教育大学柏原キャンパス
共通講義棟（A棟）A-209講義室
形式： 学内向けウェブ配信形式
（対面での出席も可。定員あり）
※開催場所においても、一定の間隔で座席を設ける予定です。
今後の状況により、ウェブ配信形式のみとなる場合があります。



参加につきましては、障がい学生修学支援ルーム
ウェブページ内に案内しております。
QRコードの読み取り、またはクリックください。

主催：修学支援センター
共催：ファカルティ・ディベロップメント事業推進委員会
問合せ先：修学支援センター 障がい学生修学支援ルーム
TEL：072-978-3479
E-mail：sienroom@cc.osaka-kyoiku.ac.jp



令和3年度 修学支援センターの活動報告

	修学支援センター	障がい学生修学支援ルーム	カウンセリングルーム
4月	修学支援センター会議【オンライン】	入学式対応 オリエンテーション対応 授業担当教員への配慮依頼 支援利用学生へのオンライン研修開始 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	オリエンテーション対応 教育実習オリエンテーション【オンライン】
5月	修学支援センター会議【オンライン】	支援協力学生(在学生対象)ガイダンス(前期)【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	学生相談学会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
6月	修学支援センター会議【オンライン】	支援協力学生(候補生)のための研修開始【オンライン】 アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	
7月	オンラインサロン(居場所活動) 修学支援センター会議【オンライン】	近畿地区障害学生支援協議会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	
8月	修学支援センター会議【オンライン】	オープンキャンパス対応【オンライン】 支援利用学生と個人面談実施【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
9月	修学支援センター会議【オンライン】	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 支援協力学生(在学生対象)ガイダンス(後期)【オンライン】 支援利用学生と個人面談実施【オンライン】 支援利用学生の教育実習対応 関西障がい学生支援担当者懇談会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	
10月	修学支援センター会議【オンライン】	支援利用学生と個人面談実施【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
11月	時間管理ワークショップ(2回) 修学支援センター会議【オンライン】	近畿地区障害学生支援協議会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	学生相談全国研修会
12月	FD研修(講演会) 修学支援センター会議【オンライン】	人権シンポジウム対応【オンライン】 アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 アクセシビリティリーダー認定試験【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】	カウンセリングルーム連絡会【オンライン】 保健センターミーティング
1月	大教FIKA(居場所活動)(4回) 修学支援センター会議【オンライン】	障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	全国学生相談研究会議【オンライン】
2月	修学支援センター会議【オンライン】	支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	NAS研究会 カウンセリングルーム連絡会【オンライン】
3月	修学支援センター運営委員会 修学支援センター会議【オンライン】	アクセシビリティリーダー育成協議会総会【オンライン】 学位記・修了証書授与式対応 支援利用学生(入学予定)と個人面談実施 指導教員説明会【オンライン】 障がい学生修学支援ルーム会議【オンライン】 支援協力学生リーダーズ会議【オンライン】	指導教員説明会【オンライン】 保健センターミーティング
備考	修学支援センター会議は 月に1回開催	障がい学生修学支援ルーム会議は月に1回開催 支援協力学生リーダーズ会議は月に1回開催	カウンセリングルーム連絡会は 概ね2ヶ月に1回開催

修学支援センター スタッフ一覧(令和3年度)

氏名	職名	所属
山本 利和	センター長	特別支援教育部門
奥田 紗史美	カウンセラー (柏原担当)	養護教育部門
山口 修一郎	カウンセラー (柏原・天王寺担当)	非常勤
郭 知陽	カウンセラー (天王寺担当)	非常勤
中田 玲奈	カウンセラー (天王寺担当)	非常勤
茂野 仁美	コーディネーター (柏原担当)	学校教育部門
小馬 加奈子	コーディネーター (天王寺担当)	学務部学生支援課
他 障がい学生修学支援ルーム担当職員2名(所属:学生支援課)		

大阪教育大学 修学支援センター 活動報告書 第2号

発行日 令和4年8月10日

発行者 大阪教育大学 修学支援センター

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

(代表) 072-976-3211
